

logicool®

# ハイブリッド ワーク用の 機器を従 業員に提供 する

ロジクールによるリモートワークに関する調査：  
調査から判明したニーズ



# 目次

1 はじめに

3 方法論

4 IT担当 & 従業員ハードウェアの標準

8 従業員の課題は蔓延している

9 課題

10 ビデオ

14 オーディオ

16 エルゴノミクス

18 一時的な回避策

23 結論

24 ロジクールからの推奨事項



# はじめに

パンデミック発生当初、短期間のリモートワークの後にすぐに「日常」が戻るとビジネスリーダーは予測していましたが、そのようなことはありませんでした。

その代替わりとして、ハイブリッドワークが新たな日常となりました。大半の従業員は、リモートワークやハイブリッドワークの柔軟性を好んでいると回答しています<sup>1</sup>。ビジネスリーダーはその一方で、従業員が求めるものと、ビジネスで必要とされるもののバランスを取ろうとしています。そして、これらすべては、従業員のワークライフバランスの優先付け、従業員の仕事に対する期待、人材獲得競争の激化など、不確実性、緊張、リスクに満ちた中で行われているのです。

そのため、2022年から2023年に向けたCEOの優先事項に関する**最近の調査**で、従業員人材に関連する課題が戦略的ビジネスの優先事項の上位3つの中に入ったことは、何ら不思議なことではありません。

さらに、パンデミックの発生から3年近く経過しましたが、組織はまだハイブリッドワーク導入の計画に着手したばかりの段階にあります。まだ多くのことが未解決なのです。しかし、従業員と組織の両方にとって有効な手法を見つけなければならないという危機感は、リーダーたちの間で高まっています。

<sup>1</sup>Microsoft 2022 Work Trend Index

# 複雑さを解明する

本レポートは、リモートコラボレーション体験の現状をユーザーの視点から把握することを目的としています。従業員が真に求めるものを組織が把握して、今後の仕事のために最適なツールを従業員に提供できるようにすることが、今回の目標です。

ここでは、コンピューター、マウス、キーボード、モニターなど、標準仕様のコンピュータ機器を使用して在宅勤務を行うユーザーのリモートコラボレーション体験に関する最近の調査結果から得られた知見を解説します。また、これらの知見と、IT部門の意思決定者を対象とした調査で得られた知見との比較も行います。

従来型のオフィスでの仕事や個人の生産性を考慮したツールが従業員に十分な形で提供されている一方で、最適なリモートコラボレーションを行うためのツールが不十分な従業員がほとんどであることがわかりました。



# 方法論

## IT部門の意思決定者の調査

ロジクールは、大企業の IT ハードウェアの意思決定者 1,000 人以上を対象に、パンデミックの発生期間中にハードウェアとソフトウェアの標準が変化したかどうかを調査しました<sup>2</sup>。その後、市場調査会社の **Escalent** 社と共同で詳細なインタビューを行い、得られた知見をさらに掘り下げました。この調査から得られた知見は、従業員の体験に焦点を当てる際に、重要な判断材料を与えてくれました。



## エンドユーザーの調査

**ETHNO** 社が実施した在宅インタビューを通じて、標準仕様のデバイスを使用する在宅勤務ユーザーが通話中に経験している数十件の問題を特定しました。

その後、米国、ドイツ、中国に在住するさらに多くの対象者を調べ、在宅でビデオ通話を行う際に生じるこのような問題がユーザーに与える影響の程度の把握を行いました<sup>3</sup>。また、市場調査会社の **2CV Research** 社の協力のもと、標準仕様のコンピュータ機器を主に支給されている3,000人以上のリモートワーカーの意識やニーズを調べました。



<sup>2</sup> ITハードウェア意思決定者を対象とした、量的および質的調査を、2021年5月、2022年5月にそれぞれ実施。

<sup>3</sup> エンドユーザーを対象とした量的調査を、2021年11月の質的調査に追従する形で2022年5月に実施。

# 仕事は劇的に変化した たが、仕事のツール は変わっていない

オフィス勤務からリモートワークへと世の中が移り変わっても、標準装備として従業員に支給されるデバイスに大きな変化はありませんでした。従業員のほとんどが、自身のツールを自宅に持ち帰り、ダイニングルーム、ベッドルーム、ソファ、場合によっては専用のホームオフィスなどに、臨時の職場を用意していました。

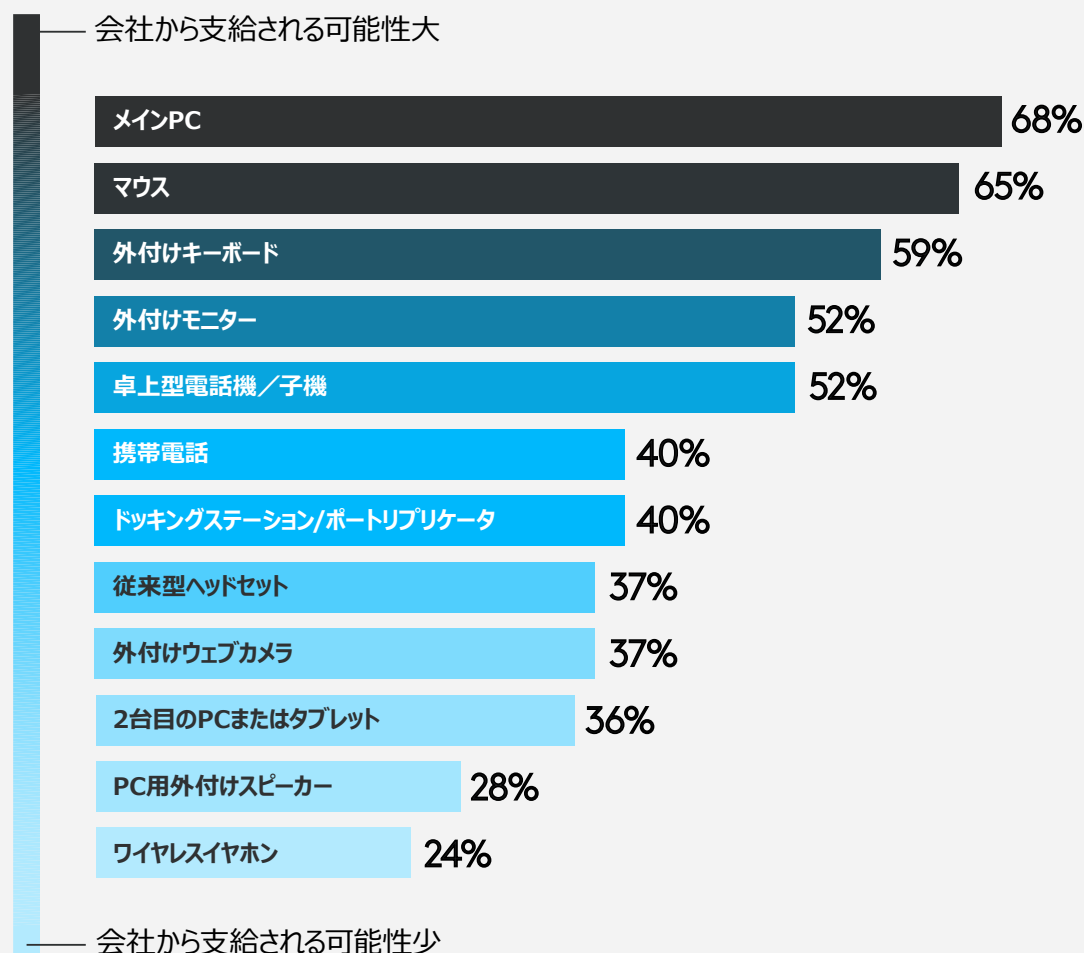
また、ほとんどの従業員は、オフィスで使用していた標準仕様のコンピューターや周辺機器を自宅に持ち帰っていました。ただ、そのようなオフィスでのコラボレーションのほとんどは、会議室で行われます。従業員のコラボレーションがほぼビデオだけで行われるようになってから2年以上経過しましたが、従業員に提供されるテクノロジーの水準はほとんど変わっていないのです。



# ビデオコラボレーションに関して、従業員は自身のデバイスを使うことを余儀なくされている

ITハードウェアの意思決定者を対象としたロジカールの調査で、（多くの従業員によるリモート会議が1年以上継続されているにもかかわらず）オーディオやビデオのパフォーマンス最適化に役立つ外付けのウェブカメラ、ヘッドセットなどのアクセサリを支給している回答者が、40%未満であることがわかりました。

標準として支給するか、リクエストに応じて支給するかのいずれかの形で従業員に支給されるデバイス



# 従業員は、自身の問題を把握して解決しようとしている

フルタイムのリモートワークが定着しつつある時期に、従業員へのツールの提供に関して考え方を变える必要があると認識していた組織もありましたが、ITリーダーを対象とした最近の詳細なインタビューによると、現状に変化がほとんどないことがわかりました。

これは、ビデオファーストのリモートワークで直面する課題や、その有効な解決策を従業員や管理職が把握することを予想外に困難にしています。





# リモートワーカー/ハイブリッドワーカーのための、「標準装備」のハードウェアといえは何か？

“私たちは従業員にノートPCを支給しています。また、従業員のほとんどにスマートフォンも支給しています。本来は支給の対象にならない従業員グループも1つ、あるいは2つほどありますが、管理職がその必要性を認めれば支給しています。周辺機器に関しては、モニター、キーボード、マウスが必要であればこれらをリクエストできます。”

— IT担当ディレクター（ラグジュアリーファッション小売/ECマース）

“通常の場合は、管理職が求めるものに応じて、デスクトップPCまたはノートPCを支給しています。ほとんどの場合、2台のモニターを支給しています。それ以外の周辺機器を支給する場合も、しない場合もあります。”

— IT担当ディレクター（ヘルスケア）



# レガシーハードウェアの標準が原因で、ハイブリッドワーカーの装備が不足する結果に

過去1年間の、ビデオをメインにしてリモートで働く従業員の働き方を調査したところ、そのような従業員は、在宅環境での最適なコラボレーション、生産性向上のためのツール不足を原因とする課題や効率の低さに苦しめられていることがわかりました。

このような課題は、以下の4つの主要な領域で蔓延しています。



ビデオ



オーディオ



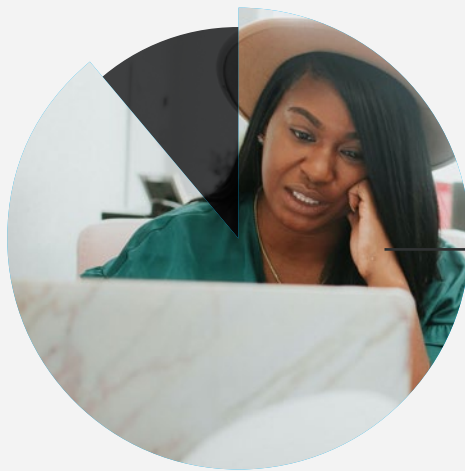
エルゴノミクス



一時的な回避策

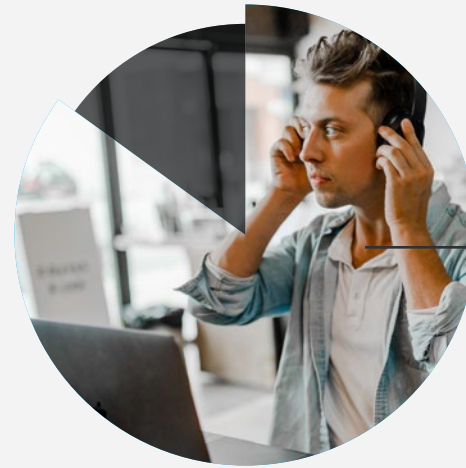
# 回答者の大半が、ビデオおよびオーディオの問題に苦勞していると回答

ビデオ会議でPC内蔵のカメラ、マイク、スピーカーを使用することに伴う制約が存在：



89%

ビデオの問題に  
苦勞する回答者  
の割合



85%

オーディオの問題  
に苦勞する回答者  
の割合

## ビデオの問題：照明に関する悩みの種



64%

影がでたり、色のバランスが崩れたりする原因となる、**不十分な照明**などの自宅の照明の問題に苦労する回答者の割合



63%

季節や日中の時間ごとの**日差し**で変化する照明の問題に苦労する回答者の割合

## ユーザーからの声

“私の部屋の照明はそれほど明るくなく、この問題にはいつも苦労しています。冬に向けて、理想的な照明を得る方法をいまだに探しているところです。”

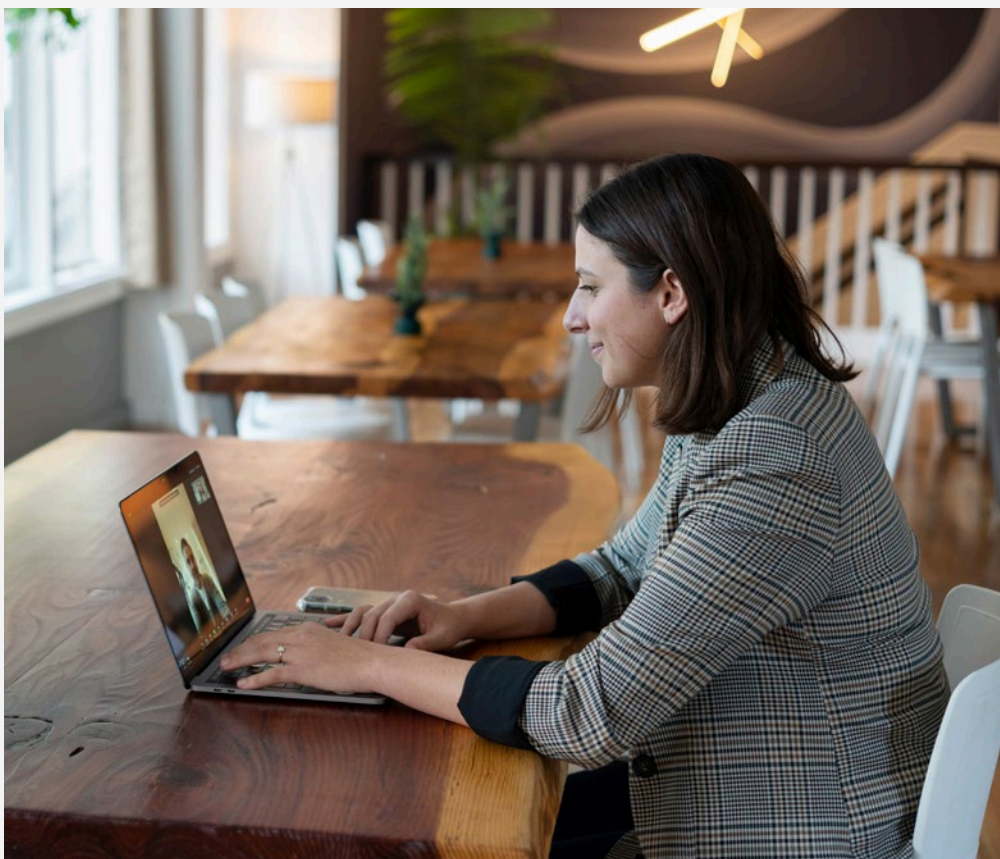
“この（卓上）ライトは自由に動かせます。ただ、このライトは光量が多すぎるため、映りが悪くなってしまい、また眼にもあまり良くありません。”

“上の階で仕事を行うと、別の照明を使用することになります。その際にモニターに映る自分が赤っぽくなり、まるで熱があるかのように映ってしまいます！”



# ビデオの問題：低品質、不自然な画面表示

PC内蔵のカメラを使用していることが、従業員が直面しているビデオの問題の主な原因。



65%

内蔵カメラの角度がいまいちで、映りが悪くなっていると回答した回答者の割合

64%

いつも通話中に視線が合わない、見下ろしているようになる、他の参加者と目が合っていないようになると回答した人の割合

63%

最高に魅力的な姿でカメラに映っていない、実際の姿と違うように映っていると感じている回答者の割合

## ユーザーからの声

“400人の先生方に向けてプレゼンテーションを行う際に、私の顔でフレーム内全体を埋めたくはありません。TVのニュースを見ていても、顔がこれほど大きく映ることはないはずです。”

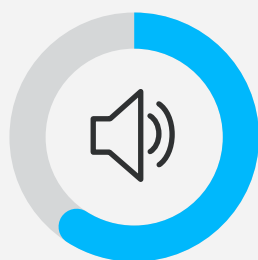
“人によっては、カメラをデスクの上に置いている人もいますが、誰かのあごを注視することになるので嫌です。”

“私自身、画面上に表示されるものを注視するために前かがみになることがよくあるのですが、別の人に私の額を見せることになってしまいます。”

“画面に映る私がいまいちです。顔の周囲が暗くなり、明るい光が横から斜めに差し込んできます。”



# オーディオの問題：PC内蔵のスピーカー、マイク、コンシューマーグレードのヘッドセットでは、通話品質に問題が生じる



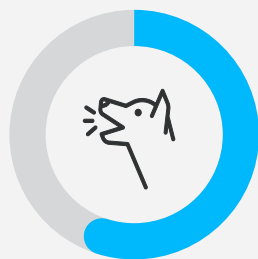
60%

PC内蔵のスピーカーの低音質に苦しむ回答者の割合



66%

周囲の雑音のために通話が聞き取りにくいと感じている回答者の割合



58%

通話中に、自宅の気が散る雑音に悩まされている人の割合



49%

ヘッドフォンやイヤホンの接続に苦労していると回答した回答者の割合



## ユーザーからの声

“誰かの声が聞こえないとき、自分のノートPCが原因だと考えて、スピーカーが上を向くようにノートPCの角度を調整することがよくあります。これで、他の人の声を聞きやすくできます。”

“雑音の多いスピーカーフォンやPC内蔵のマイクを使用している人と話をするとき、気が散ってしまいます。”

“会議中、イヤホンの電池が切れることが頻繁にあります。スマートフォンがある場合であれば、イヤホンの充電が終わって再度切り替えるまで、スマートフォンをスピーカーとして使います。片方を使用して、もう片方を充電するということです。”



# ユーザーは、エルゴノミクスが完全に考慮されていないデバイスに苦勞している

ビデオやオーディオの品質以外にも、リモートワークで発生するその他の問題があることが今回のデータで明らかになりました。



58%

カメラに映るために、無理な姿勢で座らなければならないと回答した回答者の割合

70%

通話中に長時間座っていると身体に不調を感じると回答した回答者の割合

## ユーザーからの声

“立っているときに、首を下に曲げてノートPCを見なければならぬのは嫌です。首を痛めてしまいかねない、ひどい姿勢です。ですから、目線をモニターと同じ高さにできたらよいと考えています。”

“背景にTVが映らないようにするために、椅子の半分に座る感じにしています。私の背景には鉢植えの植物と横の壁だけが他の人の視界に入るようにして、リビングルームにあるそれ以外のものは映らないようにしたいです。”

“使用しているノートPCの画面がとても小さいと感じています。これが頭痛の原因になっているので、注視しても眼が疲れることのないものが欲しいです。”



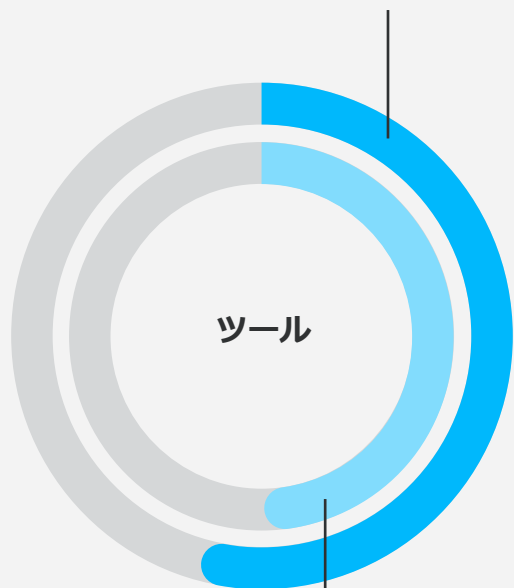
# 非効率な手動による回避策が頻繁に行われている

ビデオ通話の準備のために、機器や周囲の環境、従業員自身の準備を手動で整えることが時間の浪費の要因になっていること（想定外の結果や一貫性のない結果が生じるため）がわかりました。

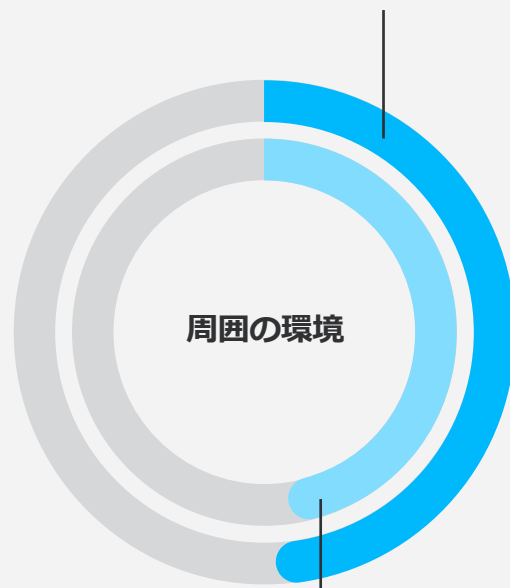


# 調整の必要性が流れを乱す要因となり、これが一日中ずっと発生するため煩わしさの原因に

**53%** スピーカーやマイクが正常に機能することを確認している回答者の割合



**48%** 周囲に気が散る雑音がないことを確認している回答者の割合



**57%** 服装や髪型などの身だしなみを整えている回答者の割合



**48%** 照明や窓など、ワークスペースの照明を調整している回答者の割合

**46%** 他の人の視界に入る、ユーザーの周囲にあるものやワークスペースを整えると回答した回答者の割合

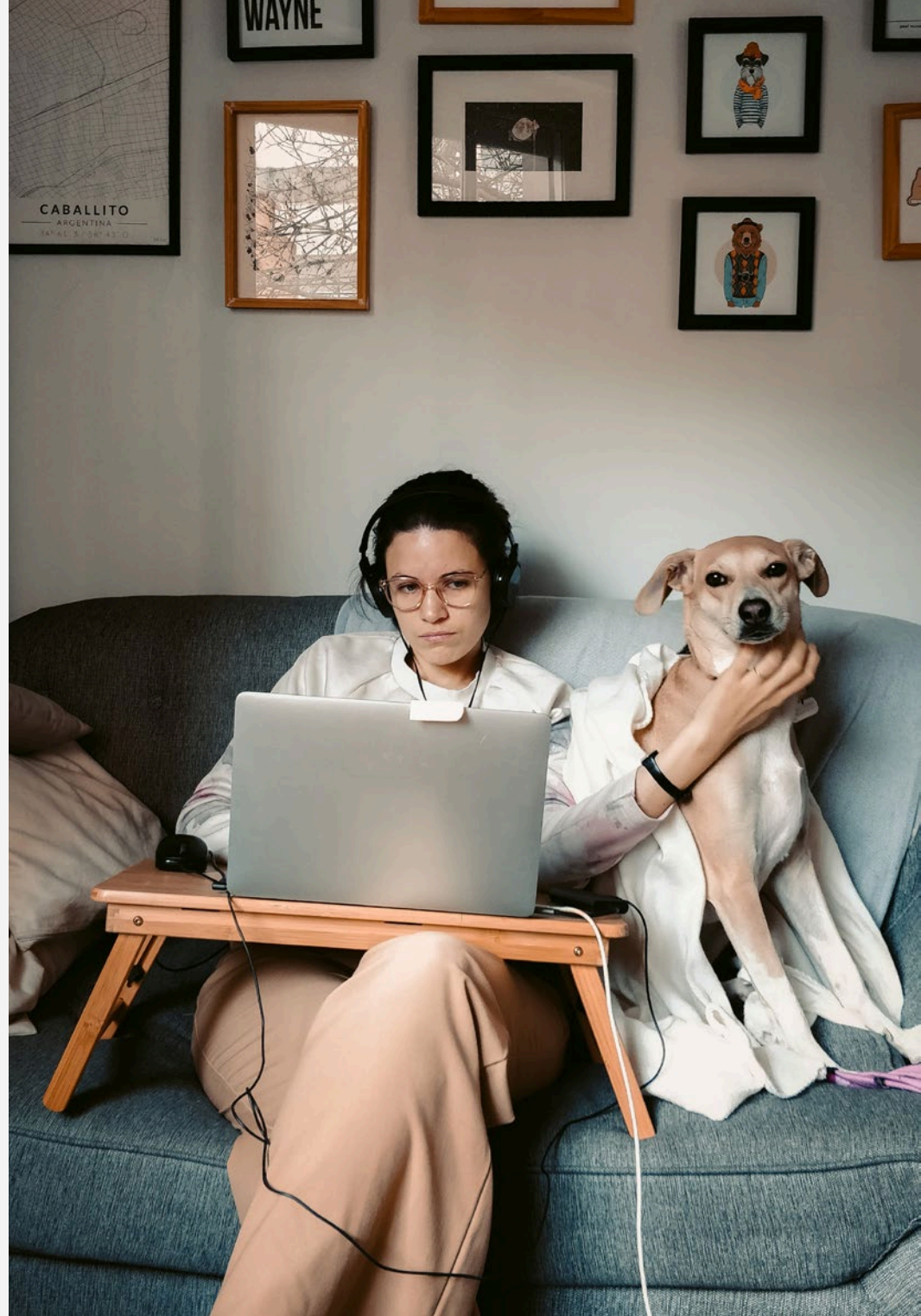
**41%** カメラに映る顔の角度を気にしたり、調整したりしていると回答した回答者の割合

## ユーザーからの声

“自分自身の姿を見て、中心で正しく映っているこ、あるいは、書き込んでいる時に、「妙な感じの姿勢に映っていないか？」を確認します。”

“フレーム内の中心に自分の姿が映るようにしたいのですが、同時にメモを取りたいとも考えています。いつも、難しい二者択一を強いられているように感じます。”

“屋外が明るい場合、ノートPCを移動させて窓の近くを避けるようにする必要があります。そうしないと、明るすぎて好ましくありません。”



# 在職期間に関わらず、広く課題が存在

22%

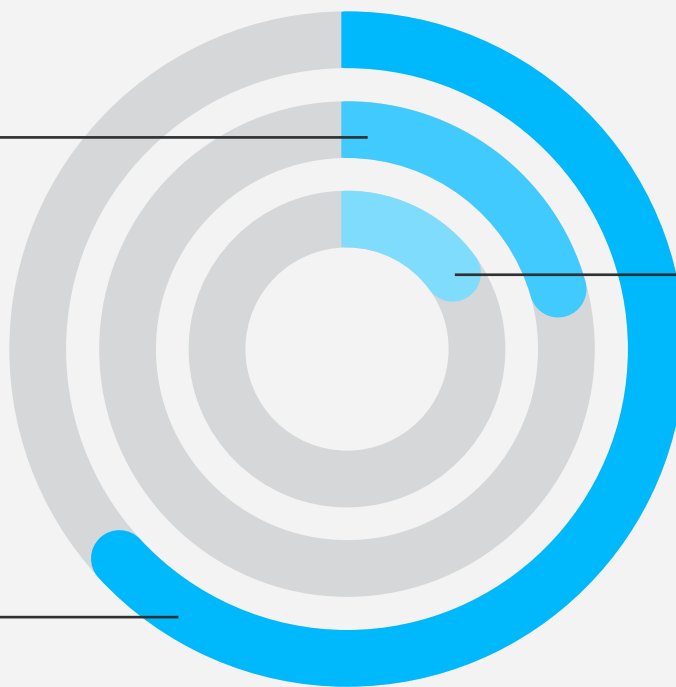
若手人材の割合

19%

上級人材の割合

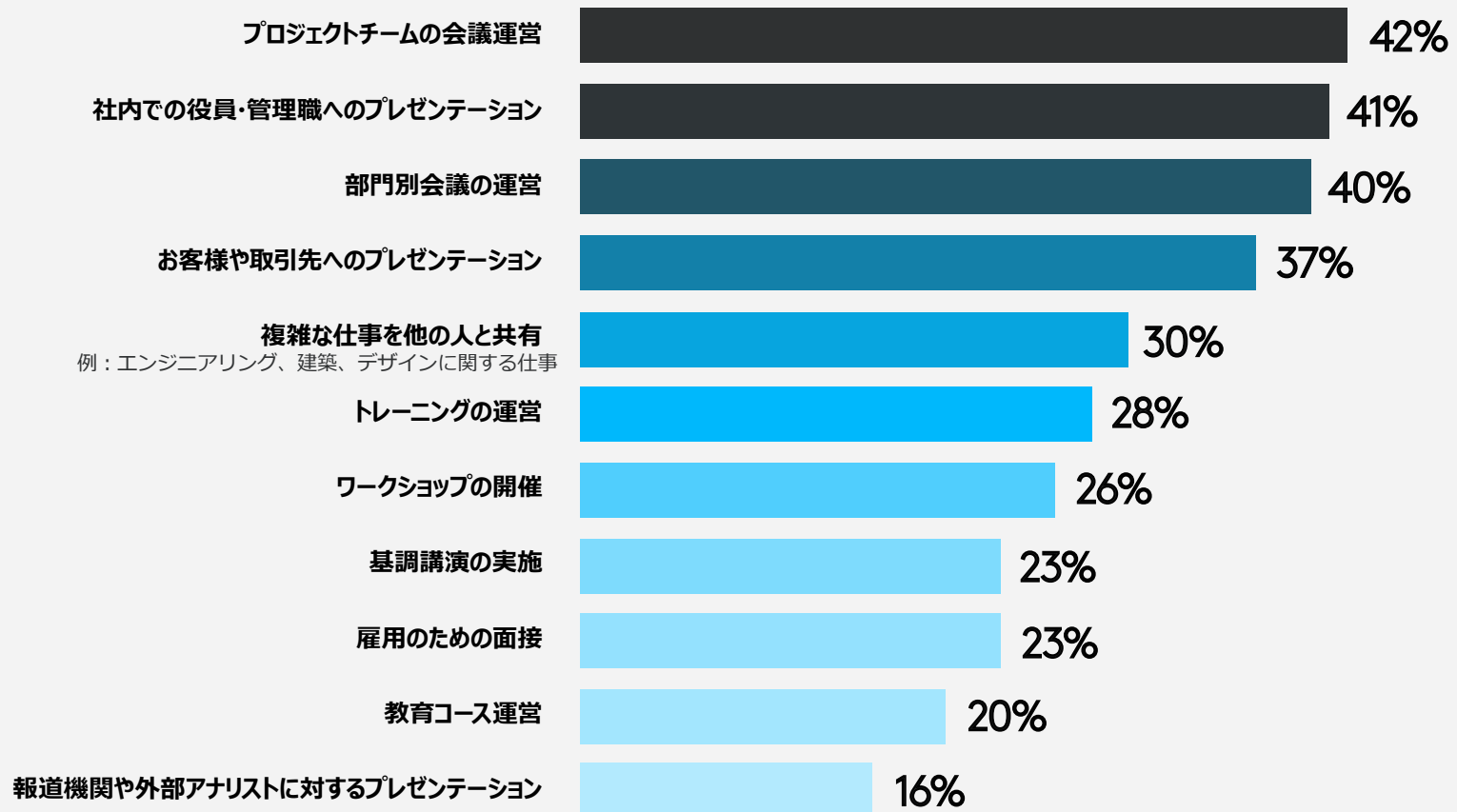
57%

管理職や経営幹部の役割を担う  
人の割合



# 重要度の高い会議を運営する人材に、ツールが十分に供給されていない

ビデオ会議の使用用途（会議のタイプ別）：





# 結論

従業員のニーズは変化しています。従業員がコラボレーションで使用するテクノロジーも、同様に変化すべきです。

個人の生産性向上を念頭に設計された標準を、リモートコラボレーション向けに見直し、進化させる必要があります。在宅勤務でも、オフィス勤務でも、オンラインでのコラボレーションを念頭に置いてワークステーションを設計すべきであり、過去20年の間に最適化されてきた機能に限定されるべきではありません。

多くの人が、今日のビジネスグレードの認定デバイスで簡単に解決可能な課題に不必要に苦労しています。オンラインでのコラボレーションに必要なツールをハイブリッドワーカーに積極的に提供することは、働き方が突然変化したことにより生じた問題を解決するために、簡単に行えるひとつの手法です。



# ロジクールからの推奨事項

- ✔ この調査で報告されているような、ユーザーが抱える課題に関して経営陣の意識を高めます
- ✔ コラボレーションや生産性の課題に関して、自社組織の従業員を対象として調査を行います
- ✔ 知見に基づいて組織の要件を定義して、変更内容を決め、検討を繰り返しながら、ハイブリッドワークの導入計画を進めます
- ✔ ウェブカメラ、ノイズキャンセリングイヤホン、ヘッドセット、コラボレーション用ドッキングステーションなどのツールを推奨、導入して、ハイブリッドワーク体験を大幅に改善します
- ✔ 互換性を確保するために、Microsoft Teams、Zoom、Google Meetなどの主要なクラウドプラットフォームの認定を受けているデバイスを選択します。

ハイブリッドワーク向けのロジクールビデオコラボレーションソリューションの詳細をご確認ください。





**logicool**

[www.logicool.co.jp/business](https://www.logicool.co.jp/business)

購入前のお問い合わせ：

株式会社ロジクール

<https://www.logicool.co.jp/ja-jp/videocollaboration/help/contact-sales.html>

購入後のお問い合わせ：

カスタマーリレーションセンター  
<https://prosupport.logi.com/>

発行：2022年11月

© 2022 Logitech.株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。記載されている会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に含まれる製品、価格設定および機能情報は、予告なく変更される場合があります。